

令和二年度「全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会」

(知事賞) 優秀賞

(中央審査) 佳作

「安全な水で救える命」

新居浜市立南中学校 3年 黒河 結

「うがい・手洗いをしっかりしましょう。」

新型コロナウイルスの影響で、今まで以上に耳にするようになった言葉だ。学校でもうがい・手洗いが強く呼びかけられるようになった。また、外出先から帰宅するとまず向かうのは洗面所だ。新型コロナウイルスの感染予防をするため、何気なく蛇口をひねる。しかし、手を洗いながらふと考えた。果たして世界の全ての人々が、こうやって自由に水を使っているのだろうか。

私はこれまでに、学校でSDGsについて学習してきた。それは、国連が取り上げているこれからの世界で実現しようとする全部で十七の目標である。その中の目標のひとつに「安全な水とトイレを世界中に」という項目がある。私たちの住む日本では、蛇口をひねれば安全な水が出るし、トイレもきちんと整備されている。しかし、世界に目を向けると、まだまだ安全な水が行き届いていない地域があるのだ。ということは、ウイルスの感染予防をするためのうがい・手洗いをしたくてもできない人がたくさんいるということだと気付いた。この行動は命を守る行動であるのに、それができないなんて考えられない。

もやもやした気持ちを抱えたまま、私は海外の水問題について調べることにした。世界では七億人以上の人が、安全な水を手に入れられない状況で生活している。人口でいうと、十人に一人の割合だ。そしてそれは、特に発展途上国に集中しているという。その地域の人たちは、水を汲むために、一日に何度も川や池、井戸を往復するという。しかも、水を汲むのは女性や、私たちのような子どもの役目だ。気の遠くなるような道のりを、重いバケツを抱え、何度も何

度も往復する。当然、私たちが学校に行って勉強したり、友だちと遊んだりする時間さえも、水を運んでいるのだ。

なぜそんなことをしないといけないのか。答えはひとつ。生きるためだ。人は水がないと生きていけない。その命の源である水を確保するために、多大な時間を費やしているのだ。しかしそうやって、女性や子どもがやっとの思いで汲んできた水は、残念ながら飲用に適していないという。なぜなら、その水は川や池、整備されていない井戸の水を汲んでいるため、泥や細菌、動物の糞尿が混ざっているからである。その水を飲むことで、抵抗力の弱い乳幼児や子どもが下痢になってしまう。また、汚れた水が不衛生な環境を生み出し、肺炎、コレラ、赤痢、腸チフスなどの感染症を引き起こし、年間三十万人の子どもが命を落としているのだ。何時間もかけて汲んだ水が自分たちの健康を害するものになるなんて本当に理不尽なことだと思う。

この現実を知り、私は大きなため息をついた。これまで、テレビや新聞で見聞きしたこともあったが、どこか遠いところまで起こっている出来事としか捉えていなかった。同じ人間でありながら、生きている環境にこんなに大きな差があるなんて考えてもみなかった。そして、人間にとって必要不可欠な水をすぐに手に入れられないことが、こんなにも不安で恐ろしいということが分かった。

世界中の人々が「安心・安全な水」を飲めるように、今も多くの人や企業が世界の水問題に取り組んでいる。では、私にできることは何だろう。まず、世の中の水問題に関心をもち、簡単に水が手に入るこの状況を当たり前と思わないことだ。今、私たちがこうやって水を飲み、元気に生きていられるのも当たり前ではない。たくさんの人の努力によって成り立っているのだ。そして、水を大切にすること。生活のいろいろな場面で使う水を減らし、水を汚さないように工夫するなど、一人ひとりの意識次第で変えられることがある。私たちのこの行動が誰かの命を救う、そう信じてこれからも生活したい。